

平成28年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
蚕糸・地域特産部門

女性目線の販売で活気づく、集落一丸での環境に優しい高品質な茶生産

○氏名又は名称 農事組合法人 桂茶生産組合（代表 花木 毅）

○所在地 岐阜県揖斐郡揖斐川町

○出品財産物（茶）

○受賞理由

・地域の概要

揖斐川町は、岐阜県の最西部に位置し、お茶の他、米、養鶏、養豚、薬草、小菊等多くの農畜産物が生産されている。特にお茶については、古くから西濃地方で生産されてきた「美濃いび茶」の最大の産地であり、重要な産業の1つとなっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

揖斐川町桂地区では、零細な個々の農家による茶栽培が行われてきたが、昭和43年以降組織化が進み、組合員186戸、茶園面積64ha、地区の茶生産農家ほぼ全戸を取り込んだ拠点的茶生産組織として発展した。50m区画での茶園整備、県下で初の乗用摘採機の導入、GAP（農業生産工程管理）の推進、高度に安全・衛生管理された共同茶工場による生葉の加工など先進的な生産体制が構築されている。

・受賞者の特色

（1）環境保全型農業、GAPの推進による安全・安心な茶生産

当組合では、化学肥料及び化学農薬を慣行より3割以上削減した岐阜県認証の「ぎふクリーン農業」に取り組み、安全・安心な茶生産を実践している。また、JGAP（日本版農業生産工程管理）を県内で初めて取得し、加工情報等を取引業者へ提供できる体制を構築している。

（2）高付加価値な茶種の生産と契約取引による経営の安定化

契約取引の割合を増やすため「てん茶」等を栽培し、経営の安定化を図っている。現在、生産体制の拡充に向け、てん茶生産ラインの整備等を進めている。

（3）女性の活躍

平成16年には組合員の女性グループによる販売部門「桂茶レディース」を立ち上げた。グループ設立から2年で組織を「いび茶の里」として法人化し、茶加工品の販売とあわせて日本茶カフェの運営も行っている。

・普及性と今後の発展方向

JGAPの運用により、高品質な茶の安定的な生産が実現したことから、地域内でのJGAP取得への動きが起きる等好影響を与えている。

また、平成28年度からは輸出を視野に、輸出先の残留農薬基準値に対応した防除体系の検討、香港 Food Expo2016 出展による海外販路の開拓等に本格的に取り組んでいる。

さらに、担い手不足の解消を目指し、若手の従業員を通年雇用し担い手として育成しているほか、茶園の集約化や再生による農地の効率利用を進めており、大規模化による経営を通じた今後の産地の維持、活性化が期待される。